

NASAの宇宙船「オリオン」が月探査から帰還し、アポロ13号の最遠距離記録を56年ぶりに塗り替えました。半世紀前の「当時の最先端」も、何十年の時代を経て確実にアップデートされています。前例や過去の常識にとらわれることなく今ある強みを、今の時代に合わせて進化させ続ける。商売もまったく同じですね。

屈辱のカープ



日差しの眩しい空に、つくつくぼうしの方がかまびすしく響いております。 晩夏とはいえ、まだ当分この暑さは続きそうです。 夏の疲れが出やすいこの頃、水分・塩分・休息をこまめに取りましょう。 この残暑を乗り越えて、実り多き秋を迎えられますように。

さて、我らがカープ。

特別な試合「8・6」。 試合終了を待たずに多くの鯉党が席を離れていく。 広島にとって大切な「8・6」に厳しい現実を突きつけられた。 終わってみれば今季5度目の2桁失点。 痛恨の逆転負けを喫し、5/9以来の最下位に転落した。 新井監督は「特別な試合だったので、負けて悔しいです。」と言葉を絞り出した。



2点リードで迎えた7回に落とし穴が待っていた。 4番手の辻が2死満塁から佐々木に、この回3つ目の四死球となる押し出し四球を与えると、指揮官は益田へのスイッチを決断。

しかし、流れを止められず、代打のダルベックに決勝の2点左前適時打を浴び、逆転を許した。 続く知念にも右中間への適時二塁打を浴び、この回一挙4失点を喫した。

ハーン・中崎らが離脱し、若手が多く起用されている現在の救援陣。 新井監督は「同じ失点をするにしても、失点の仕方がある。」と指摘したうえで、「次につなげてもらいたい。」と悔しさを糧にし、成長につなげていくことに期待を寄せた。

しかし、今のカープは戦力を云々する以前の問題。 チームに衝撃を与えた「ゾンビタバコ」の一件は全容解明にはほど遠く、選手がプレーに集中できていないように映る。

球団は警察が動き、更に報道を受けてからようやく重い腰を上げており、ここまでの対応はお粗末と言っている。 禁止薬物に対する問題意識の低さも感じる。 球団内部に自浄作用が働かないという印象を与えれば、アマ球界の選手たちや指導者は広島への入団を敬遠するだろう。 今秋のドラフト会議にも大きな影響を及ぼす。 ドラフトで指名した選手を自前で育てるカープ伝統の育成方針が崩れる心配さえある。 チーム低迷→監督交代という“表紙替え”だけで、現在の窮地は打開できない。

これまで支えてくれたファンの信頼に応えなければ、マツダスタジアムに閑古鳥の鳴く日が訪れることになるだろう。

頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。